

Imaging Team

掲載内容

MetaMorph 最新情報

Version 7.6.4 がリリースされました。

MetaMorph Basic ソフトウェア、MetaVue ソフトウェアの標準機能変更のお知らせ

新製品情報

単波長 LED 光源 pE100 がリリースされました。

次世代型磁気浮上除振台 MagFloat がリリースされました。

MetaMorph 機能紹介

Review Multidimensional Data(多次元データ表示機能)について

1) MetaMorph 最新情報

Version 7.6.4 がリリースされました。

主な改良点は下記になります。

- Andor 社製カメラ Clara を SDK version 2.85.30000 にてサポートしました。
- Q-Imaing 社製 Exi Aqua をサポートしました。
- Lumencor を正式サポートしました。
- アプリケーションモジュール Angiogenesis の機能を強化しました。
- Configure Illumination の機能で Journal を連動させる機能をサポートしました。
- IMA の計測できるファンクションを増やしました。
- 多次元データ取得機能で、多点観察 Timelapse 中に途中で Enable / Disable が設定がサポートされました。
- 多次元データ取得機能で、Log ステータスをサポートし Run Journal 機能が強化されました。
- 多次元データ取得機能で、Z Travel Offset 値を保存できるようサポートしました。
- MDMA (Multi Dimensional Motion Analysis) の機能を強化しました。
- MetaFluor で Evolve を使用する際、カメラの設定を Preferences で変更できるようサポートしました。

より詳細な情報は Web ページで確認が可能です。

(下記より ID を御入力頂き、MM764 をご確認ください)

<http://www.meta.moleculardevices.com/updates/>

ここで、多次元データ取得で今回機能拡張された多点観察中の設定変更について実際のウィンドウで紹介致します。

今までは、例えば3点のXY座標での観察をされているとしますとタイムラプス終了まで3点のデータを取得し続けるというのが標準機能でした。そこで3点(Pos1, Pos2, Pos3)の内、最後のポイント(Pos3)だけタイムラプス途中から、データ取得しなくても良いという場合、下記のようなチェック1つを外して頂けただけでタイムラプス途中からデータを取得しないよう設定することが可能になりました。止めたり再開したりすることが何度でも変更可能です。

(下記は多次元データ取得のタイムラプス中に表示されるウィンドウの Pause をクリックした状態です)



Enabled のチェックを「入れる、外す」で容易に変更が可能です。

MetaMorph Basic, MetaVue の標準機能変更のお知らせ

今後の新規 MetaMorph Basic ソフトウェア及び新規 MetaVue ソフトウェアのオーダーに関して、シャッターデバイス制御ドライバが標準機能として含まれます。(下記のオプションだった機能です)

「31020 シャッターデバイス制御ドライバ ¥60,000-」

既に購入され御持ちの MetaMorph Basic, MetaVue に機能を追加される場合には、いままで通りオプション購入をお願い致します。

2) 新製品情報

単波長 LED 光源 pE100 がリリースされました。

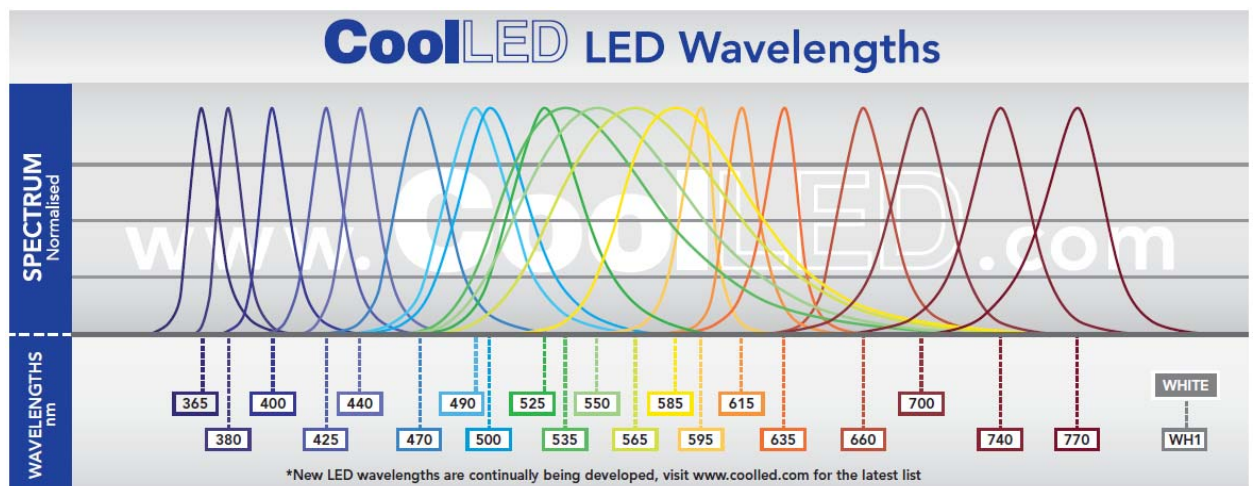
1 波長の LED 光源がリリースされました。



従来の 3 波長、4 波長タイプに比べ、価格を抑えた蛍光観察が可能になりました。

1 波長を下記から選択して頂き投光管部分に設置するだけで、ムラなく 0-100 で光量調整、LED の On/Off がリモート Pod から簡単に操作することができます。

一例として蛍光実体顕微鏡に装着すれば低ダメージ、低コストの GFP スクリーニング顕微鏡として活用することも可能です。



白色光を選択して頂きますと、明視野光源として使用して頂くことも可能です。

MetaMorph から制御する場合には、On/Off 用の接続ケーブルとシャッター制御ドライバなどが必要になります。

LED ランプ、リモート Pod、電源をセットにして、**定価 ￥250,000-(税別)**です。

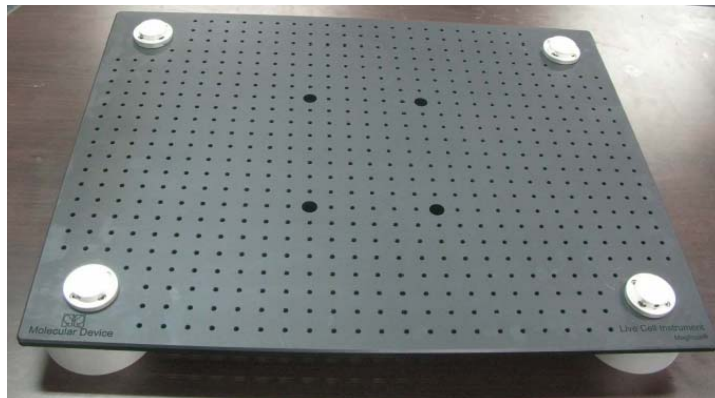
御質問は、各営業担当まで御連絡下さい。

次世代型磁気浮上除振台 MagFloat がリリースされました。

ダンパー部分にマグネットによる磁気浮上方法を採用しております(マグネットで浮いております)。従来のエア浮動方式では、エアの入れ忘れ等で除振効果がない状態で使用しているケースもあります。エアを定期的に入れるというメンテナンスを必要としません。



(600x1000mm サイズの例)



(固定用ネジ穴の仕様一例)

除振方法 : マグネット浮動方法

ベース寸法 :

MF101-6060	600mm x 600mm	¥ 280,000-
MF101-6070	600mm x 700mm	¥ 290,000-
MF101-6080	600mm x 800mm	¥ 300,000-
MF101-6090	600mm x 900mm	¥ 320,000-
MF101-6100	600mm x 1000mm	¥ 330,000-

金額は、定価・税別になります。固定用のネジ穴の加工も対応可能です。

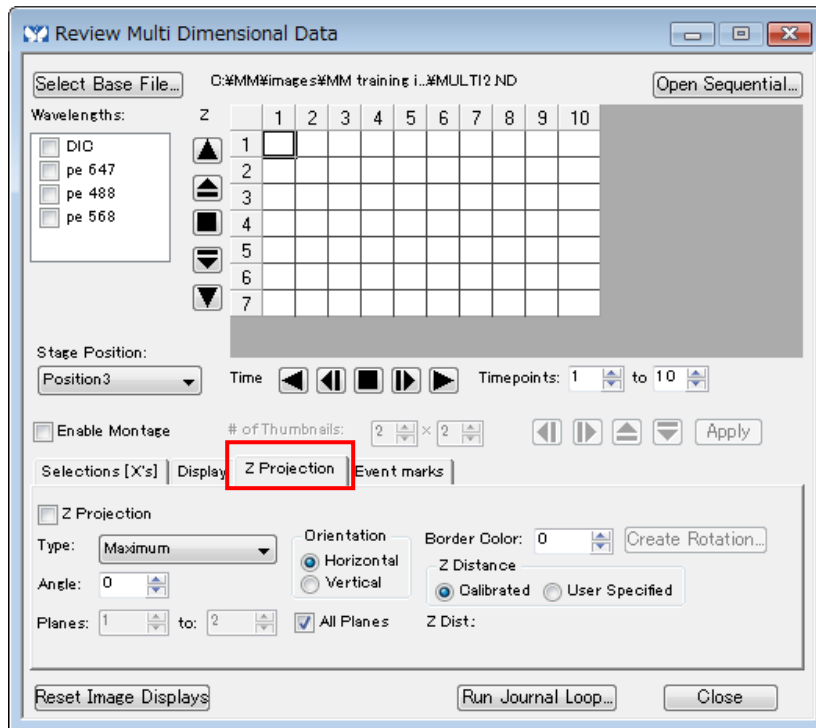
*写真除振台のベースプレートの刻印及び形状は仕様により異なります。

特注サイズのご要望がありましたら、各営業担当まで御連絡下さい。

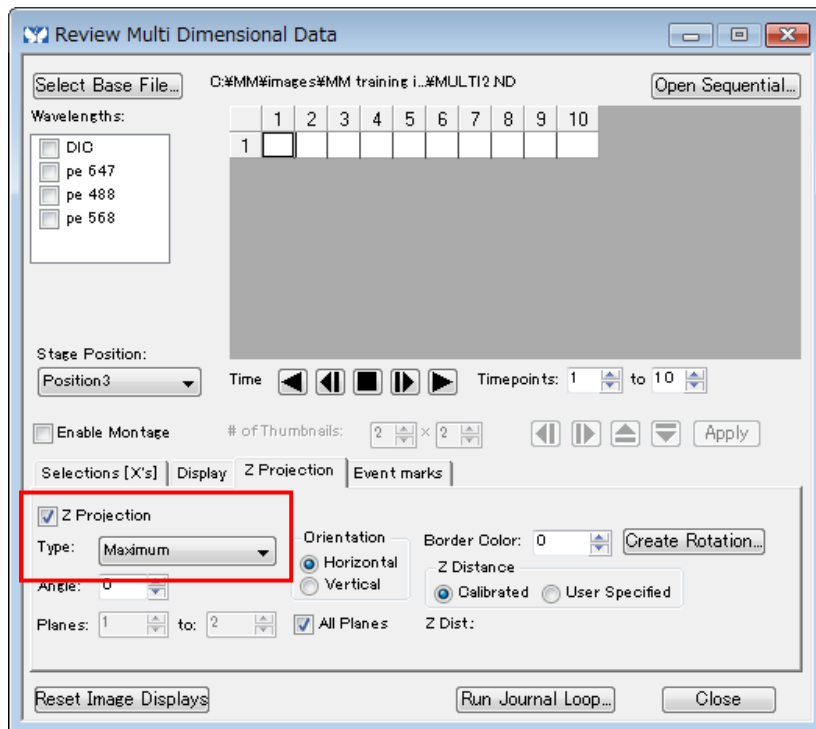
3) MetaMorph 機能紹介

ここでは、Review Multidimensional Data (RMD) の機能であまり使用されていない部分を紹介致します。

まずは、RMD と画像を開きます。

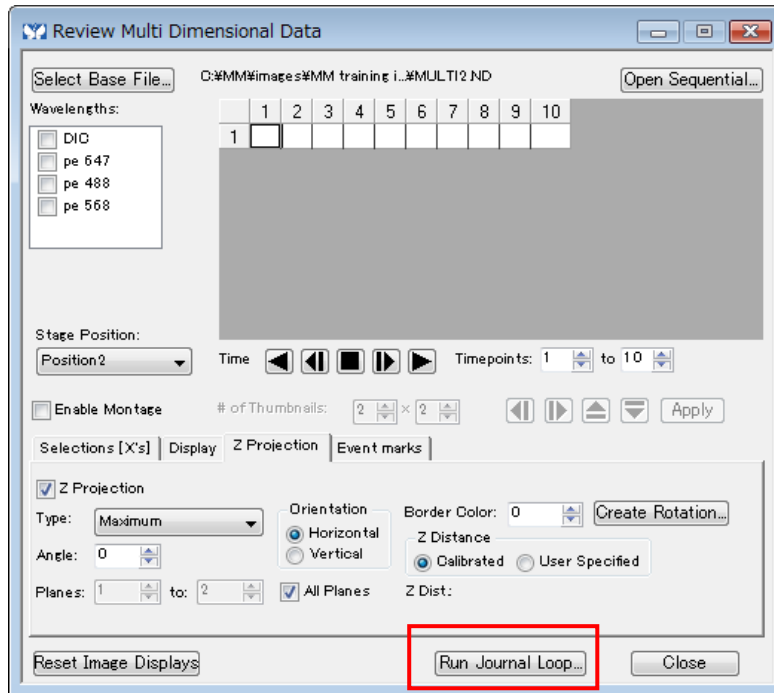


「Z Projection」で下記のようにチェックを入れますと Type の部分で選択した Maximum で処理が実行されます。

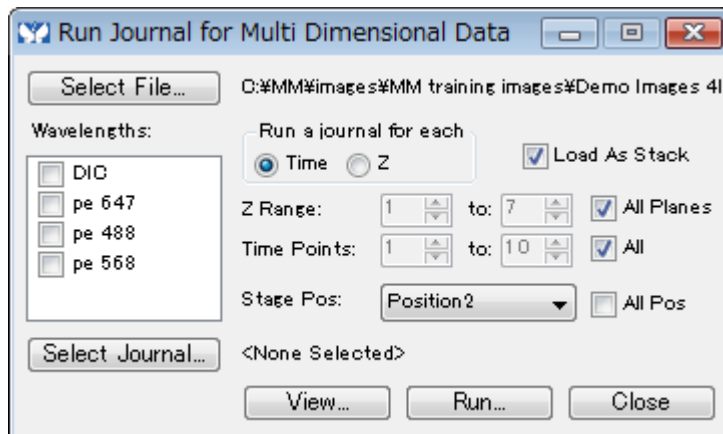


これにより、画像が Process menu / Stack Arithmetic 処理を行ったことと同じことが実行できます。

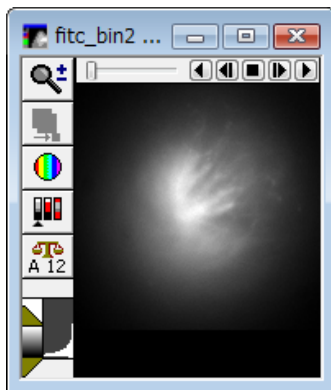
さらに、Run Journal Loop の機能を紹介します。



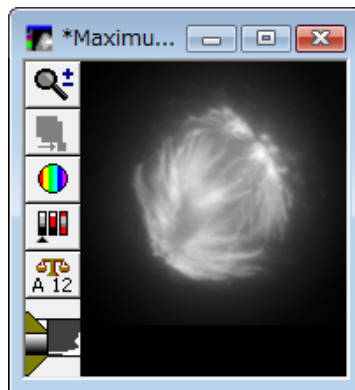
多次元データ取得された、波長ごとや Z フォーカスごとに画像処理などを実行されたい場合に、その処理をマクロ (Journal) にして実行することが可能になります。



例えば、Z フォーカス面に関して、2D デコンボリューション処理をマクロ (Journal) にして、ここで処理をし前のページで紹介しました Z Projection を実施しますと、サンプルの見えが異なります。



オリジナルの Stack 画像



Max で Projection した画像



デコンボ処理後に Projection した画像